

HSK いちばんぼし

HSK 通巻111号

昭和48年1月13日第3種郵便物認可
昭和56年7月10日発行（毎月10日）

全国膠原病友の会北海道支部

いちばんぼし No.40

も く じ

1981.7.10

支部だより

開会にあたって	2
来賓のあいさつ他	3
昭和55年度活動報告	4
昭和55年度決算報告	5
一年間の活動を振り返って	6
総会を終えてひとこと	6
昭和56年度予算	7
参加者の横顔	8～9
近況報告	10～12
事務局からのお知らせ	13～14
旭川で初の医療講演会	15



8月1日 医療講演会でお会いしましょう

去る、5月24日(日)、札幌市内の「グリーン札幌」に於いて第7回膠原病友の会北海道支部総会と中井秀紀先生(動医協中央病院)をお招きして、「医療相談会」が行なわれました。

開会にあたって

支部長 寺 嶋 礼 子

みなさん、本日はご苦労様です。

さて、「膠原病友の会」の第7回総会、同じ人間がずっと長く支部長をやっていると、毎回同じようなワンパターンの挨拶になってしまい、もう聞かなくてもわかっていると言われそうですネ。

そう、大体このような席上で話されることは「友の会の存在意義」今後のあり方、その他もろもろ、もっともらしいことが挙げられます。

実を言うと、このところ本部と支部との間で会費についてすっきりせず、正直な気持、こんなわずらわしい思いをする「友の会」なんてと思っていました。

でも、こんなことがありました。みなさんもすでにご存知のように、昨年私たちの会員が、わずか18歳で帰らぬ人となってしまいました。

彼のことが「友の会」の会員に伝わりますと、多くの方々から彼のことを惜しむ声が聞かれ私はとっさに「友の会」というものがあって良かったなァと思いました。

人はこの世に生まれおちて、ひとりでも多くの人から祝福をうけ、また、この世を去る時は、ひとりでも多くの人に自分の死を悲しんでもらうことが、幸せのひとつだと思います。よほど、社会的に偉業をなした人でもなければ、私たちひとりひとりの人生などは、他人にとって何ということもありません。まして長く患っておりますと、人間関係も自分の家族を中心とした、ごく狭いものとなっていることが多いと思います。

現在、100名余の支部会員の中で、ただ会費を払って、たまに機関紙の「いちばんぼし」が届くだけという方も多いと思います。もちろん、それだけでも良いのですが、何だか少し淋しすぎやしませんか。

このような会を通して、せっかく知り合いになれたのですから、この出逢いを大切に、もっと発展させて行きませんか。

あなた自身のかかわり合いによって、「友の会」もまた大きく変えていくことを期待します。

今日、ここにおられる方は、そのような意欲があるから出席されたと思います。このようなことを改めてお話する必要はないと思いましたが、今日欠席された方へ、声を大にして、呼びかけたいと思います。

今日は、型苦しい形式的な総会ではなく、みなさんの卒直なご意見を聞かせていただきたく思います。どうぞよろしくお願いします。

友の会の発展を願って……

おかげさまで、北海道難病連も結成8年を迎え、念願の『難病センター』の建設が確定しました。

ここで皆様にご理解していただきたいのは、このセンターは、北海道での患者運動のとりくみのスタートだということです。センターができたからといって、問題の全てが解決されるわけではなく、ここを基盤に新に運動を展開していこうということなのです。

膠原病友の会は、友の会結成以来、ずっと難病連と共に活動をしてきました。病気の特性上、人数はあまり多くないのですが、着実に力をつけてきていると思います。

最初は、ひとりふたりで仕事をしていたのが、最近では多勢の人が集って少しずつ力を出し合って、会をすすめていますし、友の会のPRも『しおり』を全道の保健所に配布を行い、また、北見地区でもあつまりを開くなど、少しずつ力をつけています。

総会の出欠のハガキですが、以前からみると、ずい分返事が戻っています。以前は返事もなかったのが多くなったというのは、友の会の存在が会員に浸透してきている証拠と思う。欠席者が多いとガッカリしているようですが、"返事がくるだけで立派。と認識してもよいのではと思います。

ただ残念なのは、いつも男性の出席者が少い。これからの友の会の課題と思うが、ふだん個人的なつながりがなくても、集ってこれるものを用意していかなければと思います。

長い間の活動の中から力をつけてきた友の会に、これからも期待したいと思います。

北海道難病連伊藤事務局長



より多くの社会参加を願って……

例年にない大雪でしたが、寒さに弱いみなさん、やっとな若葉のかおる季節となりましたね。とは申しましても、今度はカンカン照りつける太陽が少し気がかりでしょう。

本来ならば役員が出席し、親しく激励申しあげればよろしいのですが、私共もみな患者、会長もつい先日退院したばかり、いろいろ都合がありまして出席できません。また私たち会員の半数が視力障害者で、より活動をにぶらせております。

今年は国際障害者年です。多くの行事が催されるでしょう。完全な社会参加と平等をテーマにしています。みなさんと一緒になって、難病問題をより広く、より多くの道民に理解を求めて行きましょう。

また、今年は難病センターの建設が決まり、調査設計費が計上されたといわれています。福祉見直しがさげばれているさなか、担当部局にまかせきりでは、私たちの要求もいつのまにか消されてしまうことも予想されます。

これからもみなさんと一緒になって、より要求に近づける運動に力を共にし、実現するように頑張ろうではありませんか！

本日の総会がみんなの意志で成功のうちに終了することをお祈りします。そして、みなさまの病状が少しでも快方へ向うことを心からお祈りします。

北海道ベテネット病友の会



昭和55年度活動報告

(S55.4.1～S56.3.31)

S55

- 4/12 難病連第8回総会〈清野・長谷川〉
- 4/18 支部長会議（於・東京ファミリーホテル）
〈長谷川〉
- 5/16 いちばんぼしNo.36発行
支部役員会
- 5/18 第53回難病連理事会〈寺嶋・長谷川〉
- 5/12 第54回難病連理事会〈清野・長谷川〉
- 6/20 支部役員会
- 6/22 例会（於・グリーン札幌）12名参加
- 6/26 いちばんぼし臨時号発行
- 7/19・20 第55回難病連理事会・役員研修会
（於・北湯沢）〈長谷川〉
- 7/31 支部役員会
- 8/2 友の会第6回支部総会（於・札幌郵便貯
金会館）〈22名参加〉
- 8/3 友の会医療講演会（於・札幌郵便貯金会
館）〈30名参加〉
- 8/6 いちばんぼし臨時号発行
- 8/22 旭川地区例会〈小寺・寺嶋・岸本・小杉・
河野〉
- 9/6 函館地区例会〈秋元・近藤・高橋淳・田
中・長谷川〉

- 10/10 支部役員会
- 10/23 第56回難病連理事会〈寺嶋・長谷川〉
- 11/12 第57回難病連理事会〈清野・長谷川〉
- 11/13 いちばんぼしNo.37発行（医療講演会特集
号）
- 11/21・22 支部長会議及び総会（於・東京ファ
ミリーホテル）〈寺嶋・長谷川〉
- 12/5 支部役員会
- 12/11 いちばんぼし臨時号発行
- 12/14 第58回難病連理事会〈清野・長谷川〉
役員研修会

S56

- 1/6 支部役員会
- 1/25 支部新年会〈10名参加〉
- 1/29 難病センター建設委員会〈長谷川〉
- 2/6 いちばんぼし臨時号発行
- 2/7 第59回難病連理事会〈長谷川〉
- 2/25 北見地区例会〈加藤・中垣・信本・横浜・
清野・長谷川〉
- 3/1 支部役員会
- 3/14 第60回難病連理事会
- 3/19 支部役員会

※その他、会員訪問、機関紙編集・帳簿整理などの集まりは省略します。

——昭和55年度決算報告書——

(S55.4.1～S56.3.31)

収入の部

前期繰越金	274,540円	
配分交付金	830,000円	
本部助成金	95,000円	(1,000円×64名)+31,000円
本部助成金	30,970円	会議出席交通費
支部会費	40,200円	600円×67名
事業収益	98,400円	シャンプー売上利益
寄付金	115,065円	
雑収入	15,852円	利息他
合計	1,500,027円	

支出の部

会議費	164,290円	役員会・支部長会議
医療相談会	191,354円	総会・講演会
相談員補助	110,070円	相談員の電話代・交通費
機関紙発行	206,651円	
共同事業費	166,000円	難病連へ
研修資料費	12,000円	
活動費	126,980円	
難病連加盟負担金	250,200円	難病連へ
維持運営費	82,317円	
相談委託費	100,000円	
次期繰越金	90,165円	
合計	1,500,027円	

前期繰越金	274,540円	繰越金明細 (90,165円)
55年度収入	1,225,487円	現金 44,558円
55年度支出	1,409,862円	郵便振替 45,230円
次期繰越金	90,165円	預金 23,177円
		内、預り金 △22,800円を含む

会計監査報告

昭和55年度における膠原病友の会の会計を、帳簿と領収書を照合して監査の結課、適正であることを報告します。

会計監査 木谷 真知子 ㊞

一年間の活動を振り返って

①「いちばんぼし」発行について

昨年度はタイプ印刷を2回、手書きを4回発行し、内1回は、念願の『医療講演会』特集号を発行することができました。

手書きの機関紙については、渡辺さん、清野さんのお2人に本当にかんばってもらいました。

患者会にとって、機関紙というのは、背骨のようなもので、数多く発行したいと思っ
ているのですが、原稿書きから発送までを少ない人数で行っているという現実がありま
す。ひとりでも多くの方に、「いちばんぼし」発行への参加をお願いします。

また、内容については、会員からのお便りが少ないのでは、という声も聞かれました。
どんどんお便り下さることをお願いします。

②地区交流会について

北海道という地域性のため、会員がちらばり、なかなかまとまりにくいという状況の
中で、各地区ごとの交流会ができております。

今までの旭川・函館・帯広に加えて、北見地区（網走も含めて）が新たに発足し、こ
のあと、深川地区もとの声が出ています。

地区毎にままとると、もっとしっかりとしたつながりができるのではと、期待してい
ます。
(長谷川)

総会を終えてひとこと

支部総会を終え、ちょっぴりホッとしています。

今回は、恒例の医療講演会との組合せをやめ、総会だけを単独に行ったので、参加人数
が心配でした。

いつも思うのですが、はるばる遠方から出席される方に較べて札幌在住者の出席は、役
員を除くとほとんどいないのです。(市内会員には)交通費の補助がなくて、その上、役員
にでもされたら大変だなどと思う方もいるのではないのでしょうか？(もしちがっていたら
ごめんなさい。)

8月の「医療相談会」には、市内会員の便宜をはかりたいと考えています。

議事のあとの中井先生を囲んだ医療相談会も、はじめはポツリポツリでしたが、だんだ
ん重い口を開き、終る頃には、すっかりなごやかな雰囲気になりました。

役員選出に関しては、今回の総会の議事の中では、あえてふれませんでした。8月の医
療講演会の際、時間をもうけ、みなさんに考えてもらいます。

私も長年支部長をやっていますが、これは私の希望でもなく、かといってみなさんのあ

ついご支援でもなく、成りゆきでやっているわけです。

役員に新しい方が加わっても入院・転勤などですぐ人手不足になってしまいますので、多くの協力が必要なのです。

「難病センター」も、もう目に見えています。どうか、あなたの手を知恵を貸して下さい。

(寺 嶋)

——昭和56年度予算——

(S56.4.1～S57.3.31)

収入の部

配分交付金	750,000円
本部助成金	100,000円
会費	60,000円
事業収益	100,000円
寄付金	99,835円
繰越金	90,165円
合計	1,200,000円

支出の部

会議費	50,000円
役員会	30,000円
中央会議費	100,000円
医療相談会	270,000円
相談員補助	80,000円
機関紙費	220,000円
共同事業費	91,020円
活動費	70,000円
加盟分担金	225,000円
維持運営費	63,980円
合計	1,200,000円

——昭和56年度活動方針——

1. 機関紙「いちばんぼし」発行（3ヶ月に1度、年4回の子定）
2. 「膠原病のしおり」を全道の保健所に配布。
(友の会のPR、ひとりぼっちの患者を無くするための会員の拡大が目的。)
3. 各地区交流会の充実
連絡担当の方達の電話を記しました。

- | | |
|-------------|-----|
| ●旭川地区～小杉真智子 | () |
| ●北見地区～加藤 禎子 | () |
| ●帯広地区～藤田 浩子 | () |
| ●函館地区～秋元 清美 | () |
| ●深川地区～大堀 信義 | () |

参加者の横顔

*佐々木朱美さん(札幌)
お母様の看病に忙しい朱美さん、
自分の体も大切にしてください。

*清野 和子さん(旭川)
旭川へ引越して2ヶ月、今度は旭川地区連の
事務局をひきうけたとのこと。ますます患者運
動から足をあらえなくなったようです。
旭川での活躍を期待しています。

*佐々木留美子さん(札幌)
がんばり屋さんの留美ちゃん、専門学校を
卒業し、この4月から社会人一年生。
親元を離れ、アパートでひとりずまい。
気を付けて生活してね。

*谷口啓子・葉鶴ちゃん(札幌)
この5月に2歳になったばかり
の葉鶴ちゃんもいっしょに参加。
やっぱりここでも人気者でした。

*小寺 千明さん(札幌)
1月から北大病院入院中で、初めての外出が総会出席。
くすりは順調に減量されているようですが、副作用と悪戦
苦闘中。
夏の医療講演会までには、是非退院できますように。

*小杉真智子さん(旭川)
仕事とメディカル・セクレタリーの通信教育を両立
させて、更に友の会旭川地区担当を、ひきうけてもら
いました。
清野さんとの新しいコンビ誕生。期待しています。

*中村 アヤさん(苫小牧)
時間がかかっても、全てを自分でして
いるという、がんばり屋の方です。おみ
やけのお菓子、ごちそうさまでした。

*丹野井さん(釧路)
遠いところをはるばるご苦労様。

*清水 五郎さん(上砂川)

昨年より健康を害し、現在休職中とのこと。
早く職場復帰ができますように。

*伊藤加代子さん(俱知安)

俱知安からの参加、ごくろう様でした。
とってもお元気そうでしたね。おみやげの
お菓子どうもありがとうございました。

*秋元 清美さん(函館)

函館からの参加、お疲れ様でした。
理解あるご主人、そして鈴子ちゃん
にかこまれ、がんばっています。

*寺嶋 礼子さん(札幌)

主婦・英語塾教師そして友の会支部長。この3役
はいつまで続くのでしょうか。
でも、やはりこの役は寺嶋さんでなくては、み
なさん、そう思いませんか。

*渡辺 愛子さん(札幌)

2人3脚の相手(清野さん)が旭川へ
引越して、淋しそうです。今では友の会
にとって無くてはならない人です。

*柴田 宣子さん(札幌)

朝日新聞紙上で、時々文藝の講座
を見せていますが、友の会にもその
力を少し貸して欲しいと思います。

*滝本 佳世さん(雨竜町)

この2月に入会したばかりの新人さん。
相談会では、積極的に質問をしていました。自
分としても、SLEとは何かを早くつかんで、有
意義な療養生活を送ってほしいと思います。

参加された皆さんの横顔、いかがでしたか。(かなり事務局担当者の一方的見方があり
ますが)担当の長谷川は、とても元気です。事務所(大通西9協栄生命ビル、難病連内)
の近くにいらした時は、気軽に寄って下さることを楽しみにしています。

近 況 報 告

* 総会の出欠通知のハガキより抜粋しました。了解を得ませんでしたがあしからず。

暫く遊んでおりましたら、病状は大変よくなりましたが、経済的に詰まってきましたので5月から又、働きに出ております。

それで総会の日は運悪く日曜出勤に当たって残念ですが、出席できません。とうとう何のお手伝いもしませんで申し訳ございません。

原田彰さんの訃報は本当にショックでした。あの心に沁みる詩を残して、思われなかつた短い人生を考えると哀れでなりません。御冥福を祈ります。 (札幌市・中田 ミヨ)

何事も、お世話になっております。

(札幌市・裏口 清子)

順調に経過しております。4月13日北見地区の集まりをもちました。

高島さんが入院中のため日赤階上で、膠原病外来が月曜日ですので、外来受診後お薬の出来るまでの時間を利用しました。今後は月1度集まりたいと言う希望もあって5月は25日を予定しております。

内科外来主任看護婦の目黒さんも協力して下さいとの事、暑くなりましたら階上でなく宅を提供しても良いとの事でありがたく思っております。北見は色々な面でめぐまれている様です。 (北見市・加藤 禎子)

退院後5年経過発病時の苦しみがうそのように良くなり友の会、医学の進歩に感謝している毎日です。 (函館市・高橋 淳子)

発病から長期入院(6年半)その後1年間のうち5~6カ月毎年入院生活のくり返しだった私も薬の維持量は少し多いが又時々微熱が出たりで今年こそ在宅の記録をのばすことに挑戦中!

これからの季節は1年中で1番いい時期、家の廻りや大通公園の花時計、私は市内に居ても見ていないので今年こそ行ってみようと思っております。又園芸市にも、花が大好きなの。皆様もその日その日の病状と戦っていると思います。お互いに頑張りましょう。

(札幌市・林田 佑子)

この4月4日より入院中深川市立病院にて腰から下がマヒして歩くのに不自由なため今はリハビリに行っています。

運動ははじめ1週間になります。歩くにしても足に「力」が入っているのか入っていないのかわからないのでこまっています。

(深川市・三谷真千子)

今年3月3日退院しました。今は週1度通院しています。 (札幌市・小松田美智子)

お知らせがおくれましたが、4月の人事移動で山形にうつり、山形市内に住んでいます。元気です。四方山々に囲まれて、海っ子の私はザブン・ザブンと波音がなつかしいです。日本海をみに行きたいと思うこの頃です。

(山形市・安部 淳子)

ようやく桜も見頃の網走です。悪化させて入院、1年近く休んだ職場に復帰して1年たちました。

現在プレドニン7.5mg良好に経過しています。日差しが強くなってきたせいか首まわりに湿疹が出て油断してはいけないと夏帽子をとりだしました。北見日赤膠原病外来に通院しております。

そのうち北見地区の方にお会いできるのではないかと思っています。網走ですが一緒にさせていただけたらうれしいです。

どうぞよろしく願い致します。

(網走市・重本 雅江)

おかげ様で元気でおります。

(函館市・小川 暁)

やっと歩いて勤医協で判定待ちと言うところです。

(夕張市・浅野 栄子)

5月26日検査の結果は異状なしと電話をうけました。

(は)

元気で働いています。

(苫小牧市・伊藤 稔裕)

今、勤医協に通院しています。病気の方は活動状態だそうですが、ステロイドを使わず消炎剤で抑えています。

中途半端な状態なので非常にこわいのだと思います。もう少し良くなれると思っていたのですが以前と変わりなく、ちよっぴりゆううつです。(あまり期待をかけすぎたのかな?)でも私はまだまだいい方なので、せい沢な悩みですね。もう少し頑張らなくちゃ!と思っています。

(雨竜郡・木村 律子)

入院中のため欠席します。

(寿都町・村上 文子)

5月16日より勤医協中央病院5病棟入院中です。

(は)

1月末に都内に引越しました。陽気が良くなるにつれて、体調も快くなり、ゴールデンウィークには用事もあって札幌へ里帰り、久しぶりに故郷の味覚を楽しんで参りました。

今年は菓子の量を半減させるのが目標です。

(東京都・田村 芳子)

皆様お元気でいらっしゃいますか。私も丸3年間の入院生活に終りをつけ5月23日より自宅に帰る事になりました。

入院中はいろいろと励ましいいただき有難うございました。まだ1本杖でヨチヨチの歩行ですが自分の足で大地をふみしめており、こんな嬉しい事はありません。「ハビリー」との苦しみも今となってはうその様に苦しみなんて忘れた様です。まだ1人では何処へも行く事が出来ませんがその内にお目にかかれるのではと思っています。

(室蘭市・山崎よしえ)

大変調子がよく毎日勤めに行っていますと5日前には書けたのですが残念ながら今は病院です。

発病以来見ていただいていた先生が札幌へ行ってしまい、ちよっぴり不安です。

本当なら入院するほどではなかったのですが、先生が変わったため検査をしたいのと思っています。というわけで一週間ぐらいで帰れますが、みなさんに会うことが出来なくてとても残念に思います。

(帯広市・荒尾みや子)

2週間に1度通院しております。ようやく
良い季節になり少しづつ外出もしやすくなり
ました。 (札幌市・畑中 豊子)

手足が化膿しやすく今足が化膿したりして
靴をはくのが痛いため先のないサンダル式の
物をはいて歩いています。咳もたまにたま
です。 (滝川市・江幡 久子)

残念ながら今年は出席出来なく申し訳あり
ません。帯広地区活動は6月に1度会合をと
思っております。会員の皆様によりしくお伝
え下さいませ。 (帯広市・藤田 浩子)

55年12月11日～56年3月6日まで登別北大
分院に入院してました。結果は良くもならず
悪くもならず同じ状態です。

(芦別市・丸田利恵子)

毎年春に入院することが多かったのですが
今年は元気で1年過ごせそうな気がしていま
す。

「いちばんほしの小杉さんの合格のニュー
ス、みんながんばっているんですね。実は私
も4月から大学生なんですよ。通信制だけど
24歳大学1年生、がんばってます。

(亀田郡・秋本 和恵)

全国膠原病友の会北海道支部 医療講演会・医療相談会

●と き／8月1日(土) 15:00～

●ところ／北海道会館

札幌市中央区北1条西6丁目

Tel 261-5311

●講師／北大第二内科 佐川 昭先生

動医協内科 中井秀紀先生

北海道難病連全道集会

●と き／8月2日(日) 13:30～

●ところ／中央区民センター

札幌市中央区南2条西10丁目

(狸小路10丁目)



事務局からのお知らせ

◎おめでとう!!

山田美智子さんが4月結婚し、小松田さんとなりました。おめでとうございます。

住所/札幌市白石区

◎ご寄付をいただきました。

◆重本雅江様	2,800円也	◆大西勝憲様	1,000円也
◆中井秀紀様	5,000円也	◆佐々木静子様	3,000円也
◆伊藤加代子様	10,000円也	◆大沢秀子様	3,000円也
◆中村アヤ様	2,000円也	◆秋元清美様	5,500円也
◆藤咲淳様	1,000円也	◆中垣恵子様	600円也
◆佐川昭様	1,000円也		

ありがとうございました。

◎新しい会員さんです。

★重本雅江 (SLE)

網走市

★大沢秀子 (強皮症・筋炎)

常呂郡佐呂間町

★鈴木光子 (SLE)

札幌市北区

よろしくお願ひします。

◎住所変更された方です。

●佐々木留美子
札幌市白石区

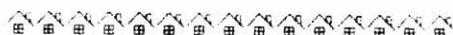
●阿部徳子
滝川市緑町

●田村芳子
東京都港区

●丸田利恵子
芦別市上芦別町
道営住宅

●安部淳子
山形市南原町

他に住所の変わった方は、事務局まで
お知らせ下さい。



◎次の方達が入院されています。お見舞いや励ましのお便りを出しましょう。

●北大病院
第2内科 小寺千明さん
皮膚科 木谷真知子さん

●勤医協中央病院
内科 佐々木良子さん
村上文子さん

●道立北野病院 滝沢真理子さん

●深川市立病院 岩崎ケイ子さん
三谷真千子さん

入院しているあなたへ

あせることはない
365日の30日 ベッドの上でも
335日残っている
60日休んでも
305日残っている
体が疲れているって……
だから それにみあうだけの休日が必要
なのさ
長い間の資本である体だから
たとえ指1本でも
歯1本でも大切にしないと……。

「旭川で初の医療講演会」

6月28日(日)、旭川市で膠原病に関する初めての医療講演会が開かれました。

札幌から、勤医協中央病院の中井秀紀先生に講演をお願いし、基本的な膠原病の話から地域社会における保健婦の役割、又そこに参加された13名の保健婦さんへのお願い、そして友の会のPRなど、豊富にして細やかな内容で、時間が足りない程でしたという参加者の声が聞かれるなど、主催者側としては嬉しいかぎりです。

当日のお天気もまずまずで、旭川市及びその近郊の患者と家族の参加者は約60名。内、当日友の会に入会された方が6名です。(新しい仲間は次号で紹介します。)

これもひとえに、難連旭川地区連絡会の滝田さんたちがマスコミに働きかけて下さったおかげと感謝しています。(て)



あ と が き

★ 「いちばんほし。7月号のあとかきを書きながら、湯上りの身体が冷えないように、ちょっとストーブをたきました。

本本に今年は、夏がやって来るんでしようかね？

★ 念願の旭川地区医療講演会も成功裡に終り、友の会も地道ながら一步一步と着実に歩を進めています。

★ 何度も風邪をひき、ゴホン・ゴホンと咳をしているうちに、今年ももう半分終わってしまいました。あとの半年は今少し快調でありたいと思います。

★ では、8月の医療講演会の席でお逢いしましょう。

楽しい夏を過ごされますよう、祈っています。(て)

全国膠原病友の会北海道支部

編集人 全国膠原病友の会北海道支部
札幌市中央区大通西9丁目 協栄生命ビル9階
北海道難病連内 ☎060 ☎(011)261-8026

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市中央区北1条東4丁目 本間 武司

昭和48年1月13日第3種郵便物認可 HSK通巻111号 多100
いちばんぼし¥640 昭和56年7月10日発行（毎月1回10日発行）